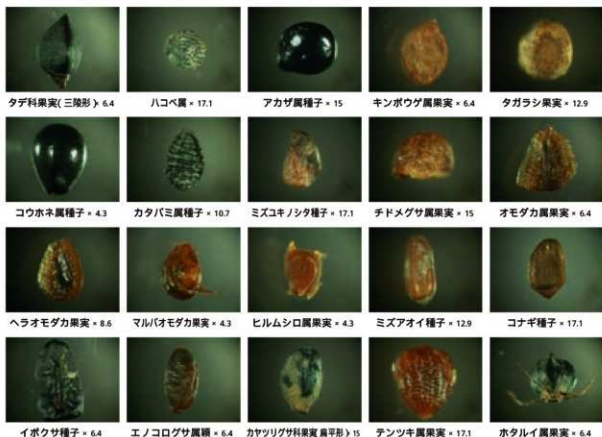


種実の同定

<http://www.kyoto-arc.or.jp>

(財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館



種実の顕微鏡写真(数字は掲載倍率)

はじめに 遺跡調査の現場では、遺構とともに、その時代の人たちが使った土器・瓦・石製品・金属製品・木製品など、さまざまな遺物が出土します。このような遺物は肉眼で見つけることができます。

その遺物の中に、植物の種子・果実・植物の一部(葉・樹皮・枝等の木片)があります。モモ・クルミなどの一般に種と呼ばれる核果の部分は他の植物の種子・果実(以下種実)に比べれば大きく、硬いために形状を保っているのが容易に見つけられます。

しかし、その他の種実は小さか

ったり、果皮の一部しか見つからないため、大部分は土と一緒に捨てられてしまいます。

選別と同定 実際に発見された河川・池沼・溝・竪穴住居・ごみ穴などの土を取り上げ、0.25~4mmの篩にかけて水で洗浄します。その残渣をバットに入れて水で希釈し、細い筆先を使って選別します。すると、種実・骨・貝・昆虫・炭化物などさまざまなものが見つかります。その中でも小さくて肉眼で見えにくいものは顕微鏡で観察し、現生の実物や写真と比較します。このように、生物の分

類学上の所属や名称を明らかにすることを同定と呼びます。



選別作業(上)と同定作業(下)

学名	出土部位	科名	生育場所	和名	出土部位	科名	生育場所
タデ (扁平形)	果実	タデ	水辺・湿地	シソ科	果実	シソ	山野
タデ (三輪形)	果実	タデ	水辺・湿地	トウバナ属	果実	シソ	山野
ギンギン草	果実	タデ	野原・道端	ナス	種子	藜	藪
ハコベ属	種子	ナデシコ	涼草	オモダカ属	果実	オモダカ	池沼
アカザ属	種子	アカザ	道端	ヘラオモダカ	果実	オモダカ	池沼
ヒコ属	種子	ヒコ	道端	マルバオモダカ	果実	オモダカ	池沼
キンポウグサ属	果実	キンポウグサ	水田・溝	ヒルムシロ属	果実	ヒルムシロ	池沼
タガタシ	果実	キンポウグサ	水田・溝	ミズアオイ	種子	ミズアオイ	池沼
コウホネ属	種子	スイレン	池沼	コナギ	種子	ミズアオイ	水田・溝
カタバミ属	種子	カタバミ	道端	イボクサ	種子	ツクシ	水田・溝
ウリ	種子	ウリ	緩傾	イネ科	籾	イネ	道端・野原
ヒシ科	果実	ヒシ	池沼	エノコログサ属	籾	イネ	道端・野原
ミスユキノシタ	種子	アカバナ	池沼	カヤツリグサ科	果実	カヤツリグサ	湿地・水田
セリ科	果実	セリ	山野・湿地	テントウキ属	果実	カヤツリグサ	湿地・水田
チドメグサ属	果実	セリ	道端	ホタルイ属	果実	カヤツリグサ	水辺・湿地

池の堆積土層から見つかった種実一覧

見えてくるもの 同定により、種実の場合は、栽培種であればその土が堆積した時代の栽培・食用の事実の明確な証拠とされ、野生種であれば植生から環境がおおよそ推定できます。

一般に、ある植物がある場所に生育できるのは、その場所がその植物にとって生育に適した条件を持っていたからです。つまり、植物はそれぞれが自分の生存に好適な場所である、山野・池沼・田畑(耕地)・道端・人家の近辺・荒地などにしか生育しません。その種実は、鳥に食べられて散布を拡大するものを除けば、近辺に散布されると考えられます。したがって、土の中から見つかる野生種の種実は、その種類・個数からその土がその時代にどのような環境で堆積したかを表わしています。

例えば、平安京右京五条一坊一〜四町(中京区壬生高橋町・松原町)の調査で見つかった平安時代前期の池跡の場合は、堆積土が上層の腐植土と下層の砂で構成されています。下層の時期は緩やかな流水があったのが、上層の時期になると澱んで滞りした状況になったことを示しています。

下層からは、沼・池・湿地に生育するオモダカ科・ミズアオイ科、水田・溝に生育するカヤツリグサ科や道端に生育するチドメグサ属・ハコベ属で構成されていました。上層では上の表のように、沼・池・湿地に生育する種類が多くなり、特に耕地や道端など、人の手の入った場所を植生とする植物が増加しています。これは、水の流れの変化による環境の相違を示しているようです。

これらの種実は、土に埋まって硬い部分が残存したのですが、コメ・コムギ・オオムギなどの穀類が火や熱により炭化したものが溝・竪穴住居・ごみ穴などから見つかる場合があります。伏見城下の大名屋敷跡では、炭化した「おにぎり」が出土しています。桃山時代から江戸時代の戦乱のなか、糧食が兵火により炭化したのかも知れません。

おわりに 調査現場の中で見過ごされてしまう微細な遺物も、さまざまな方法で選別し顕微鏡などを使って分析することで、多くの情報を明らかにすることができそうです。小さな世界ですが、見つかる喜びは物の大きさに関係はありません。常にアンテナを張り巡らせ、わずかな兆候を見逃さないようにしたいものです。(電子 正彦)



コムギ × 1.4



オオムギ × 1.4



コメ × 2.8



アカザ属 × 3.9



マメ類 1 × 2.8



マメ類 2 × 2.8



炭化した「おにぎり」